

病院 探検「がんのトータルケア」で地域をリード「**癌治療センター**」

現在、がん治療は、外科療法、化学療法、放射線療法が三本柱とされています。しかし日本には、この三本柱に十分に対応できる医療施設が、まだまだ少ないのが現状です。そうしたなか、友愛記念病院・癌治療センターには、地域に先駆けて化学療法科と放射線治療科を設置。県西地区をリードする「がんのトータルケア」に正面から取り組んでいます。

患者さんのアメニティにも配慮した化学療法科

当院の化学療法科には、日本にはまだ少人数の腫瘍内科医（抗がん治療の専門医）が常勤で勤務。ドクターを中心に、外科、放射線科、さらに他科のスタッフがチームとなって、化学療法に臨んでいます。

また、長期間続けなくてはならない化学療法は、外来つまり普通の生活を続けながら通院して治療を受けるスタイルが望まれる傾向にあります。この傾向を受けて、副作用の少ない薬や副作用をケアする療法も次々に開発されており、当院でも外来化学療法に積極的に対応しています。

とはいえ、患者さんにとって、定期的に病院へ通うことがそ

れなりの負担であることには変わりありません。そこで、当院の化学療法科には、外来で化学療法を受ける方のための専用の療法室を設けています。一人に1台の液晶テレビも設置されたこの部屋では、リクライニング・シートでリラックスしながら、点滴治療を受けていただけます。

最新機器と専門医師を有す県西唯一の放射線治療科

化学療法と同じく放射線治療もまた、効果が広く認められながら、日本では非常に遅れている療法のひとつです。このような状況のなか、当院では、県西唯一の放射線治療施設を2006年のリニューアルオープンと共に開設しました。

安全性や性能に優れた国内最新鋭の放射線治療機器を用いて治療にあたるのは、放射線治療専門医と専門のスタッフ達。ミリ単位の精度を問うプロフェッショナルな技術とノウハウで、病巣と戦っています。



治療に要する時間は1回30分弱ですが、見慣れない機器に囲まれる患者さんの緊張を少しでも和らげようと、治療室内に軽快なBGMを流すなどホスピタリティにもきめ細やかな気配りが。高度な設備と温かいヒューマンリティの融合は、他の科と同様ここでも発揮されています。

シームレス&トータルながんケアの実現

癌治療センターを構成しているのは、もちろん化学療法科、放射線治療科ばかりではありません。がんの早期発見に努める画像診断センターや、積極的な治療と患者さんのご家族をサポートする緩和ケアが、シームレスにがん治療に対応。さらに外科をはじめ院内の各科がネットワークを構築して、がん治療を幅広くバックアップ。この連続性と包括性が、当院、「癌治療センター」機能の大きな特徴です。

がん治療に正面から挑む当院の姿勢は地域でも高く評価され、開設後わずか数カ月で、なかには埼玉や栃木から来院される患者さんも少なくありません。

「県西唯一の放射線治療施設ということで期待を寄せられていることは分かっていたましたが、これほど待ち望まれていたとは!」と放射線治療科の吉田次男先生。一方、化学療法科

